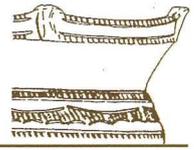


# 生田遺跡



2006.2.26  
神戸市教育委員会  
生田遺跡現地説明会資料

## 生田遺跡について

生田神社の西側で昭和62年に発見された遺跡です。これまでに3回の調査がおこなわれました。その結果、古墳時代後期(こふんじだいこうき、約1500~1600年前)の竪穴住居(たてあなじゅうきょ)や掘立柱建物跡(ほったてばしらたてももの)などが見つかり、集落のあったことがわかりました。今回、再開発事業に伴い試掘調査をしたところ、遺跡の範囲がさらに西に広がることわかりました。そして、今回の調査で縄文時代後期(じょうもんじだいこうき、約4000年前)~鎌倉時代初め(かまくらじだい、約800年前)の土器や、生活の跡が見つかりました。このほか、レンガを使った建物の跡が、見つかっています。



発掘調査  
位置図

このレンガを使った建物跡が見つかった場所は、1900年に完成した神戸中華同文学校(こうべちゅうかどうぶんがっこう)があったといわれている場所です。この学校は、華僑(かきょう)の子弟のために創立された学校で、政治家の犬養毅が名誉校長を務めていました。今回見つかった建物の基礎は、当時の一般の住居と比べるとずいぶん大規模であることから、おそらく1945年6月の神戸大空襲で焼失した、神戸中華同文学校の跡と考えられます。



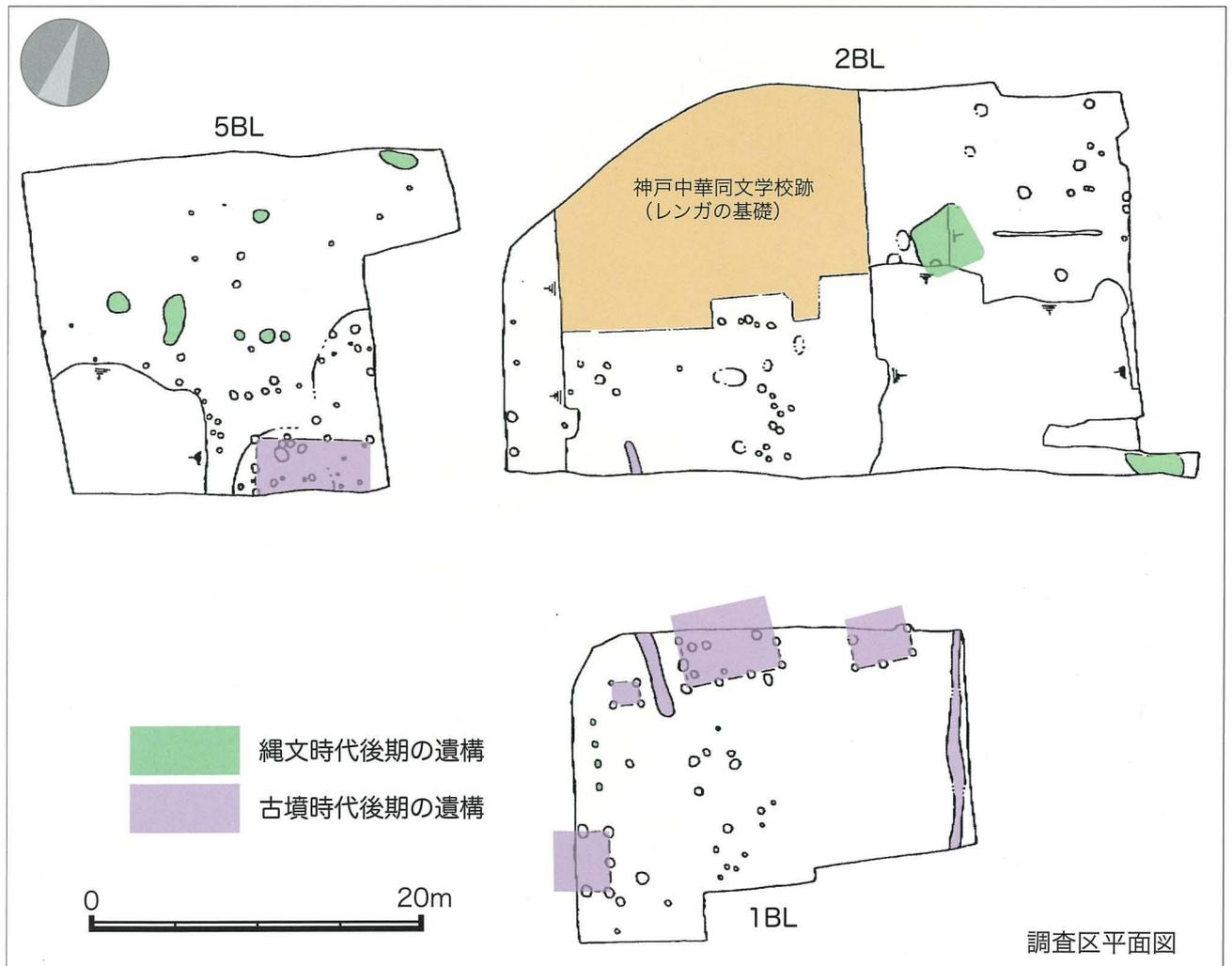
神戸中華同文学校跡と考えられるレンガの基礎

## 古墳時代後期の集落

これまでの調査の結果、掘立柱建物(ほったてたてばしらもの)が5棟、ほかに溝などが発見されています。今後も数棟の建物が発見される可能性があります。建物の柱の穴には土器が埋まっているものもありました。また、溝からは完全な形の土器が出土しています。



溝から土器が出てきた様子



## 縄文時代の集落

これまでの調査では見つかっていませんでしたが、今回の調査で初めて生田遺跡から縄文土器(じょうもんどぎ)が出土しました。たくさんの土器と一緒に、くぼみや柱の穴などの生活の跡が発見されたため、ここに集落があったことがわかりました。



土 偶 (左肩の部分)

## 縄文土器

発掘された土器は、縄文時代後期中頃～後半(約4000年前)のもので、土器の表面に縄目が見られます。縄目以外にもいろいろな模様がつけられています。形もバラエティがあり、深鉢(ふかばち、煮焚き用)や浅鉢(あさばち、盛り付け用)のほか、急須(きゅうす)のような注ぎ口のある注口土器(ちゅうこうどぎ、液体容器)などが見つかっています。

大阪・奈良県境の二上山や香川県の五色台・金山で産する、サヌカイトという石で作られた石鏃(せきぞく、やじり)や、木の実などをすりつぶす時に使った磨石(すりいし)や石皿(いしざら)なども出土しています。

今回の調査では、縄文時代～鎌倉時代までの土器や生活の跡が見つかりました。特に今回発見された縄文時代後期の土器や遺構は、神戸市内でも数ヶ所しか見つかっていないことから、貴重な発見だといえます。今後調査が進んでいくと、さらにさまざまなものが発見され、これまでよくわからなかったことなどが解明されていくと考えられます。

なお、今回出土した土器などは、西区の神戸市埋蔵文化財センターで整理され、収蔵・展示されます。埋蔵文化財センターでは、神戸市内で発掘された様々な時代の遺物が展示され、昔の神戸の人々の生活を体感できる施設です。ぜひ一度お訪ねください。



縄文時代の柱穴やくぼみが、たくさん見つかりました

## 祭祀の道具

普段の生活に使われていた土器や石器以外に、人物をあらわした土偶(どぐう)や、結晶片岩(けっしょうへんがん)という石でつくられた石棒(せきぼう)と呼ばれる祭祀(さいし)の道具が見つかっています。

これらの遺物は、神戸市内ではあまり発見されていないことから、貴重な発見といえます。



石棒が出てきた様子



さまざまな縄文土器



石鏃とサヌカイトの破片